

2019年度 厚生労働科学研究費補助金（二次公募）課題（案）一覧

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
臨床研究等ICT基盤構築 人工知能実装研究事業	ICTを活用した医療情報等の解析による医療の質の向上等のエビデンスを創出するための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先制的医療や診療プロセス効率化等のための、ICTを活用した電子カルテ情報や検査結果等の医療情報（ライフデータを含む）の革新的な解析技術やプログラムの確立 ・ 上記の技術あるいはプログラムの実証研究の実施及び評価（実用可能性の検証） ・ 実証研究を行った結果、医療情報の解析が下記のいずれかに資するエビデンスとなり得るのかを示すこと <ul style="list-style-type: none"> ① 医療の質の向上 ② 患者・国民の健康水準の向上 	10,000～ 13,000	1～3	2
	集中治療領域における生体情報や診療情報等を活用した人工知能（AI）の実装を推進するための基盤整備に係る社会的・技術的課題等についての実証的研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連学会の取組と連携して、ICUにおける複数のモニターから出力される時間の概念を有するデータ（パネルデータ等）と健康アウトカムのデータをマッチングさせることによって構築した膨大な教師ありデータベース ・ 各種特徴量を抽出しモデルを構築するため、本データの特性に最も適した人工知能を用いた解析手法（例えば、深層学習のネットワークモデル）の確立 ・ リアルタイムのより精度の高い重症化予測プログラムや急変予測システムの実現可能性の実証 ・ こうした実証的研究を行った上で、基盤整備に係る社会的・技術的課題等について検討を行い、安全で効率的なTele-ICU管理に必要な標準的プロトコルの作成（人工知能の結果を基にした、医師の助言や診療支援体制やモニタリングにおいて監視すべき項目等の整理） 	20,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
がん政策研究事業	子宮頸がん検診におけるHPV検査の利益・不利益の評価と具体的な導入方法の検討のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ HPV検査を用いた子宮頸がん検診に関する文献のレビューの結果 ・ HPV検査を用いた子宮頸がん検診（HPV検査単独法、細胞診とHPV検査の併用法、HPV検査陽性者に対する細胞診トリアージ法）及び細胞診による子宮頸がん検診の利益（メリット）・不利益（デメリット）の整理 ・ 日本でHPV検査を用いた子宮頸がん検診を実施する際の運用方法（対象者の設定、受診間隔、検査陽性となった場合のフローチャート、精度管理体制等）の提案と、同検査を実施する際に留意すべき事項の抽出（HPV検査単独法、細胞診とHPV検査の併用法、HPV検査陽性者に対する細胞診トリアージ法のいずれの検査方法についても言及すること） 	8,000	1～2	2

<p>がんゲノム医療に携わる医師等の育成に資する研究</p>	<p>がんゲノム医療に携わる医師等が備えるべき知識や資質について検討し、そのような知識や資質等を身につけるための方策を検討の上、医師等を対象に、研修実施者の育成も念頭に置いた上で、モデル研修及び研修を実施し、評価を行うこと。なお、これらの研究には、以下の成果を含むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がんゲノム医療中核拠点病院等でエキスパートパネル（「がんゲノム医療中核拠点病院等の整備について」（平成29年12月25日健発1225第3号）参照）を構成する専門的な人材の育成及びエキスパートパネルの質の向上に資する研修資料（生涯学習に資する資料を含む）やe-learning及び研修プログラムの作成と研修の実施及び評価 ・ 主としてがんゲノム医療中核拠点病院等以外に勤務し、がん診療に携わる医師等を対象に、がんゲノム医療に必須の知識（がんゲノム医療に必要な用語の知識、遺伝子パネル検査の原理やレポートの理解、遺伝子パネル検査の活用方法、遺伝性腫瘍に関する知識等）を身につける際に求められる研修資料やe-learning及び研修プログラムの作成と研修の実施及び評価 ・ 上記の研修の実施・評価の結果を踏まえて、研修資料、e-learning及び研修プログラムを改訂、完成させること。 	20,000	1~2	3
<p>がんゲノム医療に基づいた適応外医薬品の効果検証及び研究推進方法の研究</p>	<p>本邦で薬事承認されている遺伝子パネル検査を実施し、判明したバイオマーカーに基づいた医薬品の適応外使用の対象となる患者に対して、対象となるがん種やバイオマーカー、医薬品等について検討の上、患者申出療養等の保険外併用療養費制度のもとでバスケット型研究を実施すること。これらの研究では、少なくとも以下の情報を収集し、治験等につなげていくための条件や体制について整理すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治療を希望する患者数の把握 ・ 治療を希望する患者のバイオマーカーの種類とそれぞれの数の把握 ・ 医薬品ごとの有効性及び安全性 ・ 治験や保険収載につなげるにあたり、研究計画上必要な条件と課題 	5,000~7,000	1~2	3
<p>がん拠点病院間の支持療法の均てん化に資する研究</p>	<p>支持療法の均てん化に資する研究の成果として以下を満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診療ガイドライン等が作成されている支持療法について、医療機関等での実施の阻害因子や促進因子を明らかにし、拠点病院等で支持療法への取り組みを推進するためのガイドの作成 ・ 抗がん剤に伴う神経障害や外見の変化に対する治療等、拠点病院等における支持療法の実態把握 ・ 支持療法が、病院及び地域ごとに差がなく実施されるための政策上の課題の整理と解決に向けた方策の提案 	7,000~8,000	1	2
<p>がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん治療における緩和的放射線治療の実態や、患者の認知度を把握し、緩和的放射線治療の普及についての課題を抽出する。 ・ 緩和的放射線治療についてがん診療連携拠点病院等に所属する医療従事者のニーズを把握し、それらを踏まえ、研修プログラムや普及啓発コンテンツを開発する。 ・ 緩和的放射線療法に関して、がん患者へ情報提供を行うためのツールを作成し、がん情報サービスやがん診療連携拠点病院等で活用した結果を評価する。 	5,000~7,000	1~2	3
<p>がん患者の療養生活の最終段階における、患者・家族の苦痛に対する迅速かつ十分な緩和ケアの提供のための研究</p>	<p>がん患者の療養生活の最終段階において、身体的・精神心理的苦痛に対し、迅速かつ十分に、緩和ケアを提供するための方策の検討やその症状評価、実践等に資する、以下の成果を含むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療用麻薬の適正かつ効果的な使用方法の確立（在宅医等に向けたがん種、症状や重症度に合わせて医療用麻薬に関するガイド等） ・ 薬物療法のみでは十分に対応できない身体的苦痛に対する緩和ケア（神経ブロックや緩和的放射線治療等）を促進する手法 ・ 療養生活の最終段階におけるがん患者の終末期せん妄等の精神心理的苦痛に対する緩和ケアの手法 	10,000	1~2	3

AYA世代のがん患者に対する精神心理的サポートの質の向上と適切な教育の提供を実現するための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ AYA世代のがん患者に求められる精神心理的サポートの手法を開発し、効果検証を行う。最終年度には、小児がん拠点病院等で使用することを念頭に、手引き等をまとめる。 ・ AYA世代のがん患者に、適切な教育の提供を可能とするため、行政の協力の下、小児がん拠点病院等が実施可能なアプローチ手法を開発する。最終年度には、小児がん拠点病院等が使用することを念頭に、好事例集及び手引き等を取りまとめる。 	7,000～8,000	1～2	3
がん患者等の遺族の精神心理的負担の軽減に資する研究	<p>がん患者等の遺族の精神心理的負担の軽減に資する研究の成果として以下を満たすこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内・海外での遺族の精神心理的負担の軽減に資する研究や取り組みをレビューして取りまとめ、医療機関等が実施する際の課題や方策を明らかにする。 ・ 遺族の抑うつや複雑性悲嘆などのリスク要因を明らかにし、医療従事者や訪問看護師等によって、介入やケア等が必要とされる遺族をスクリーニングし、専門的なケアにつなげるための方策を提案する。 ・ 医療機関等で実施が可能な遺族の精神心理的な軽減につなげるための予備的な介入研究の実績を得る。 	9,000～10,000	1～2	3
小児がん患者における在宅医療の質の向上を目指した研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児がん拠点病院等を受診した小児がん患者及びその家族、小児がんの経験者及びその家族を対象に、在宅医療の希望や在宅医療について知りたい情報等の調査を行い、患者や家族側から見た在宅医療実施のための課題を把握する。 ・ 小児がんの経験者やその家族を対象に、在宅医療の希望や在宅医療について知りたい情報等の調査を行い、患者や家族側から見た在宅医療実施のための課題を把握すること。 ・ 小児がん拠点病院等に勤務する医療従事者等の抱える在宅医療実施に係る悩み等を把握し、医療従事者側から見た在宅医療実施のための課題を把握する。 ・ 小児がんの在宅医療における地域に展開可能な好事例を収集する。 ・ 上記4点を踏まえ、把握された課題について、地域に展開可能な解決策を検討する。（なお、小児がん拠点病院等と在宅医療を行う場が遠方である症例があることも想定し、検討を行うこと。） 	7,000～8,000	1～2	2

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額(千円)	課題数	研究期間(年)
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	加熱式たばこの喫煙及び受動喫煙による健康影響評価手法開発のための基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加熱式たばこの喫煙及び受動喫煙による健康影響を評価するため、主に動物試験を用いた手法を開発するための基礎的な知見の整理 ・ 加熱式たばこの喫煙及び受動喫煙による健康影響をより短期間で把握する方法の開発、及び受動喫煙の防止に関する施策に資する知見の整理 	7,000～8,000	1	2
	心房細動等の循環器病診療の標準化・適正化に資する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心房細動に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術等のカテーテル治療について、関連学会等と連携した全国規模の既存のデータベースを用いた、対象者を含む適応判断の現状把握、カテーテルやマッピングシステム等使用デバイスを含む手技内容、合併症の発生状況、ガイドライン遵守状況等の現状の取りまとめ結果 ・ 海外のエビデンスの我が国への適応可能性の検討、海外のエビデンスの確立していない部分(対象患者等)における我が国でのエビデンスの評価(特に高齢者、基礎疾患のある者への適応)、全体的な費用対効果の分析結果 ・ 上記の現状やエビデンスを踏まえた、心房細動等の循環器病診療の適正医療の推進及び医療経済の健全化に資する、我が国における標準的な経皮的カテーテル心筋焼灼術等のカテーテル治療の適応や適切性基準の作成 	7,000～8,000	1	3

栄養素及び食品の適切な摂取のための行動変容につながる日本版栄養プロファイル策定に向けた基礎的研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸外国における食品の栄養価のスコア化（栄養プロファイル）の策定の方法論（検討体制、検討期間等を含む。）、栄養プロファイルに係るプロモーションの方法、食品関連事業者や学術団体等の協力体制等を含めた活用方法等に関する資料の作成（諸外国の資料のうち、英語以外の言語のものについては、適切な日本語に翻訳すること。） ・ 日本版栄養プロファイルの策定に向けて整理した課題及び日本版栄養プロファイルの試案に関する資料の作成（日本版栄養プロファイルの試案は、一般消費者を対象としたフィジビリティスタディを行った上で作成すること。） 	7,000～8,000	1	2
口腔の健康と全身の健康の関係性の解明のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔の健康と全身の健康に関する研究のレビューによる、歯科疾患との関係性が指摘されている各種全身疾患、及びそのエビデンスレベルの整理 ・ 口腔の健康と全身の健康との関係性についての因果関係等を明らかにするために必要な研究デザインの提案 	5,000	1	1
エビデンスに基づいたロコモティブシンドロームの対策における簡便な確認・介入方法の確立と普及啓発体制の構築に資する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連学会で推奨されている診断方法（ロコモ度テスト）や介入方法（ロコローショントレーニング）を基本とした、より簡便な介入方法の確立（国内外の論文等のシステムティックレビューの結果及びエビデンスレベルの提示） ・ 自治体の普及啓発体制に適合したロコモティブシンドローム対策のモデルの提示 ・ モデル地域における実践及び評価 	4,000～5,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
腎疾患政策研究事業	腎疾患対策検討会報告書に基づく慢性腎臓病（CKD）に対する地域における診療連携体制構築の推進に資する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国を大都市、過疎地等を含む8ブロック程度に分け、ブロックごとにおける、CKD診療連携体制に関する実態調査、対策の立案と実施の支援、報告書で示された評価指標等を用いた進捗管理、均てん化に資するエビデンス構築、今後の戦略策定等 ・ 好事例を都道府県発で市町村へと横展開した結果の検証 ・ 参加した地域以外も含む、地方公共団体を対象とした成果報告会の実施とアンケート調査結果 ・ CKD診療連携体制構築の推進に資する方法・資材等の開発 	25,000～30,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
免疫アレルギー疾患政策研究事業	アレルギー疾患医療提供体制を活用した研究体制の構築と診療の標準化のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギー疾患において、現在整備中の全国の都道府県アレルギー疾患医療拠点病院が連携して、共通フォーマットを用いて研究を実施する体制を構築し、今後必要となる大規模疫学調査や臨床研究を実施する基盤を確立する。研究終了時までに最低1件の同フォーマットを用いた研究を開始する。 ・ アレルギー疾患医療における検査法や治療法の標準化を行い、ガイドライン等に反映することで、患者が居住する地域にかかわらず、科学的根拠に基づく診療を受けることができるようにする。研究終了時までに最低1つの反映されたガイドラインを公開する。 ・ AMEDの推進する中央倫理審査委員会・中央倫理審査委員会基盤整備事業において推進されている多施設共同研究における倫理審査集約化の取り組みや、非介入研究における中央倫理審査委員会の基盤整備の試みの情報を十分に把握し（参考：https://www.amed.go.jp/program/list/05/01/010.html）、適宜連携の上、研究終了時までに最低1件の中央倫理審査委員会を用いた研究を開始する。 	5,000～7,000	2	2

	関節リウマチ患者のライフステージに着目した診療の質の向上のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節リウマチ患者の社会生活の充実に繋げるため、専門医療機関だけでなく、一般医やメディカルスタッフにも対応が求められることが多い関節リウマチ診療において、科学的根拠に基づいて、患者の各ライフステージにおけるQOLの向上に繋がる診療の質の向上に資するガイドライン等を作成する。 ・ 研究終了時まで最低1つの、各ライフステージにおける相違等に関する科学的根拠が反映されたガイドライン等を公開する。 	5,000～7,000	1	3
--	------------------------------------	--	-------------	---	---

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額(千円)	課題数	研究期間(年)
慢性の痛み政策研究事業	慢性の痛み患者への就労支援の推進に資する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慢性の痛み患者の就労状況、就労時の治療状況等に関する実態調査と慢性の痛み患者が活用可能な就労支援マニュアル作成の準備(2019年度中) ・ マニュアル作成と普及方法の検討、試行的普及の実施(2020年度中) ・ 普及の成果の確認のための実態調査・解析、マニュアルの修正(2021年度中) 	8,000～12,000	1	3
	疾病横断的な慢性疼痛患者の簡便な客観的評価法の開発とその普及による医療向上に資する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係学会から承認された痛みの簡便な客観的な要素を含む評価法等の開発 ・ 痛みセンター等での評価法を利用した診療における妥当性や課題の評価 ・ 評価法を利用することによる患者の療養生活環境整備やQOL向上に資する診療体制の構築等への反映 ・ 痛みセンター等での支援に対する保険適応を検討するためのエビデンスの提供 	10,000～15,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額(千円)	課題数	研究期間(年)
認知症政策研究事業	認知症に関する血液・髄液バイオマーカーの適正使用のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症に関する(※)血液・髄液バイオマーカーに関する国内外の文献を収集・分析し、我が国の使用・開発状況を踏まえたそれぞれのバイオマーカーの特性について整理し、バイオマーカーの適正使用について提案を行うための基礎資料を作成する。 ・ ※ 診断、発症リスク予測、治療に対する応答性評価等 ・ 画像バイオマーカーとの比較も踏まえ、バイオマーカーの特性に応じて臨床・研究現場においてどのような使用が適正と考えられるか検討を行う。 ・ 研究・臨床現場ですでに利用されているバイオマーカーについてのSOPを収集・整理して、現場におけるバイオマーカー適正使用のための基礎資料を作成する。 	2,000～3,000	1	2

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
障害者政策総合研究事業	【再公募】 ギャンブル等依存症の治療・家族支援の推進のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知行動療法に基づくギャンブル等依存症治療プログラムを医療機関、精神保健福祉センター、民間支援団体等の性質の異なる機関で実施し、ギャンブル問題に関する評価尺度の介入前後の変化、治療継続状況、自助グループ参加率、QOL等の主観的評価を含む中長期予後及び支援者の知識向上や忌避的感情軽減等の情報を収集する。 ・ 気分障害や発達障害等の併存障害を伴うギャンブル等依存症に対する治療と支援方法を整理する。 ・ ギャンブル等依存症治療プログラムを実施するための研修会や講演会を実施し、ギャンブル等依存症の治療プログラムや家族支援の普及と均てん化を図る。 ・ 自助グループや民間支援団体への支援のための課題抽出の上で、関係機関の連携の好事例集を取りまとめる。 	22,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
エイズ対策政策研究事業	H I V感染者の合併症に関する疫学情報の収集・分析体制の構築及び臨床的活用のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国におけるH I V感染者の合併症（エイズ指標疾患を含む）に関する疫学情報の収集・分析の結果 ・ 当該情報と、既存の疫学情報（エイズ発生動向等）との関係性の整理 ・ 継続的な疫学情報の収集・分析を行うに当たっての課題の整理と解決策の提案 ・ 収集した疫学情報をH I V診療の現場に還元するための手法の検討と提案（例：診療ガイドラインの作成等） 	6,000～ 9,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
労働安全衛生総合研究研究事業	【再公募】 自動走行可能な自律制御産業機械の安全基準策定のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動走行可能な自律制御産業機械の安全関連システムに対するリスクアセスメント手法及び要求安全度水準の決定方法の開発 ・ 要素技術の実証を含めた安全関連システムの社会実装前の実証試験の方法（プロトコル）の開発 ・ 開発されたプロトコルによる実証試験のトライアルの実施、及び安全関連システムの安全度水準の評価の試験の実施 ・ トライアル結果を踏まえて改善されたリスクアセスメント手法及び実証試験プロトコルの提案 	13,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米国等、医療用麻薬の乱用の蔓延が問題となっている代表的な国・地域に関して、医療用麻薬に係る乱用及び規制の経緯及び変遷を文献調査やインタビュー調査等により取りまとめる。 ・ 取りまとめを踏まえて、現地調査等を実施し、日本における乱用リスク要因を分析し、日本において医療用麻薬の適正な使用を促進していくために制度及び施策等において留意すべき事項についての提言を取りまとめる。 	6,000	1	3

研究事業名	研究課題名	求められる成果	課題ごとの予算額 (千円)	課題数	研究期間 (年)
健康安全・危機管理対策総合研究事業	CBRNEテロリズム等の健康危機事態における対応能力の向上及び人材強化に係る研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ CBRNEテロ災害・マスマスガザリングに関する公衆衛生及び医療における対策について、世界健康安全保障行動グループ会合を含む、国内外の最新の科学的・政策的知見を集約し、各国の政策・実事例の分析を行う。 ・ 分析を基に、我が国における予防・検知・対応能力の現状の課題と改善点を提案する。 ・ 得られた現状の課題の改善のため、我が国の健康危機管理対応に資する人材の強化に必要な事項（強化が必要な分野、人材に求められる能力、育成プログラム、育成後の受け皿等）を検討し、素案を取りまとめる。 	4,000～ 5,000	1	3